

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和3年10月7日(2021.10.7)

【公開番号】特開2020-36704(P2020-36704A)

【公開日】令和2年3月12日(2020.3.12)

【年通号数】公開・登録公報2020-010

【出願番号】特願2018-164498(P2018-164498)

【国際特許分類】

A 6 1 N 2/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 N 2/04

【手続補正書】

【提出日】令和3年8月30日(2021.8.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

頭蓋を介して磁気刺激を個体の神経組織に負荷するための磁気の発生を制御する制御デバイスと、
前記制御デバイスに接続された少なくとも6台の刺激発生デバイスであって、前記少なくとも6台の刺激発生デバイスのそれぞれが、前記制御デバイスにより、1回の刺激あたり、一定時間内に、他の刺激発生デバイスからは独立して時間差を持って一定間隔で複数回電流のパルスを出力するように制御される前記少なくとも6台の刺激発生デバイスと、

それぞれの刺激発生デバイスが出力した電流から磁気を発生する刺激デバイスと、を備える経頭蓋磁気刺激システム。

【請求項2】

前記一定時間が1分から6時間であり、

前記時間差が2から5ミリ秒であり、

前記一定間隔が1から1.5秒であり、

前記複数回が5から120,000回であり、

1回のバーストの持続時間が、10から50ミリ秒であり、

刺激は、複数回繰り返して負荷され、

前記複数回出力される電流の値が、毎回実質的に同じである、

請求項1に記載の経頭蓋磁気刺激システム。

【請求項3】

神経系細胞の増殖を活性化させるための磁気の制御方法であって、

刺激デバイスが、1回の刺激あたり、一定時間内に、一定間隔で少なくとも6回の磁気のパルスを出力するように制御することを含み、前記磁気のパルスは、頭蓋を介して磁気刺激を個体の神経組織に負荷する、磁気の制御方法。

【請求項4】

前記一定時間が1分から6時間であり、

前記時間差が2から5ミリ秒であり、

前記一定間隔が1から1.5秒であり、

前記複数回が5から120,000回であり、

1回のバーストの持続時間が、10から50ミリ秒であり、

刺激は複数回繰り返して負荷され、
前記複数回出力される電流の値が、毎回実質的に同じである、
請求項3に記載の磁気の制御方法。